

児童・生徒が東通村とジオパークの魅力を発表！



児童が工夫したイラストや全身を使った表現での発表が大好評でした

2月3日、下北ジオパーク推進協議会が主催する「下北ジオパーク学習・研究・活動発表会2018 in むつ」が開催されました。これは、ジオパークの活動に求められる「保護・保全」、「教育・研究」、「地域振興（観光・商品開発など）」の三本柱のうち、下北ジオパークが平成29年度に取組んできた「教育・研究」活動の成果などを発表するものです。

学習発表は、地域学習等にジオパークの要素を取り入れてきた5市町村の小学校や高等学校が行いました。研究発表では、下北ジオパーク研究補助金制度を活用した下北ジオパークの研究成果などが発表されました。

当村からは、東通小学校3年生が学習発表に参加しました。

児童が工夫したイラストや全身を使った表現での発表が大好評でした

東通小学校3年生や東通中学校の制作物の一部は、庁舎交流センター1階（教育委員会前）でも展示しています。ぜひお立ち寄りください。（期間は3月末まで）

今年度、東通小学校3年生では、地域を学ぶ「マジカル東通ツアード」と題して、東通村のジオサイトに関する学習を行いました。下北試験場や海上保安庁の協力を得て、実際に猿ヶ森砂丘を歩き、尻屋崎灯台に登ったりしながら、砂丘の成り立ちや灯台の歴史・価値を学びました。

発表会では、学習で学んだことをイラストや写真で紹介しながら、児童が実際に解説しました。特に、全身を使ってヒバの埋没林の成り立ちを解説した表現は、来場者にも高評価で、最年少での参加ながら、立派に東通村の地形や歴史の価値を伝えてきました。

2月4日（日）、第3回下北地区子ども会郷土芸能発表会が開催され、下北地区的子ども会5団体が、祭り囃子や能舞など、各地域に伝承される郷土芸能を披露しました。この発表会は、下北地区子ども会育成連合会（中嶋康夫会長）が主催。郷土芸能の継承に取り組んでいる子ども達にその成果を発表してもらい、地域住民の子ども会活動へのより深い認識と、子ども達の健全な成長を願うことを目的に毎年実施されているものです。

東通村からは白糠子ども会



白糠子ども会による「鳥舞」

「東通のもちつき踊」は、木村 柚菜さん、西山 美夢さん、伊勢田 凜さん、西山 葵さん、赤田 璃音さんの5人が、鮮やかな衣装に身を包み優雅な踊りを披露しました。一生懸命に舞を披露した子ども達に、会場からは大きな拍手が送られていました。



白糠子ども会による「東通のもちつき踊」

が参加し、「鳥舞」と「東通のもちつき踊」の2演目を披露しました。

「鳥舞」では白糠勇清俱楽

会の拍子に合わせて、東田 結翔くん、相内 聖和くんの2人が華麗な舞を見せていました。

この発表会は、下北地区子ども会育成連合会（中嶋康夫会長）が主催。郷土芸能の継承に取り組んでいる子ども達にその成果を発表してもらい、地域住民の子ども会活動へのより深い認識と、子ども達の健全な成長を願うことを目的に毎年実施されているものです。

東通村からは白糠子ども会